

内容/議題	・報告 1件 ・議案 3件		
日付	2025/08/27 13:30～	場所	総合庁舎 中会議室 1
発言者	・井内教育長 ・山根委員・ ・守屋委員 ・廣川委員 佐々木次長 ・小笠原参事 ・上岡 GL ・武田 GL ・岡崎 LPM		

概要
<ul style="list-style-type: none"> ・報告第 1 号 諸般報告 ・議案第 1 号 令和 7 年度安平町一般会計補正予算について ・議案第 2 号 財産の取得について ・議案第 3 号 令和 7 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」における市町村別結果の公表について

決定事項
<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 1 号 原案とおり可決 ・議案第 2 号 原案とおり可決 ・議案第 3 号 原案とおり可決

備考

次回開催予定	2025/09/24 13:30～
---------------	-------------------

詳細議事内容

開会 13:30

井内教育長 定刻となりましたので令和7年度第5回安平町教育委員会を開催いたします。ただいまの出席者数は3名です。定足数に達していますのでこれより開催いたします。最初に会議録署名員の指名を行います。本委員会の会議録署名員は安平町教育委員会会議規則第13条の規定により廣川委員を指名いたします。それでは1報告事項に入ります。報告第1号諸般報告を事務局より説明をお願いします。

佐々木次長 【諸般報告】

井内教育長 ただいま事務局より説明が終わりました。この件に関しましてご意見ご質問等いただきます。いかがでしょうか。

守屋委員 フォーラムの詳しいというか、報告とかありますか。

井内教育長 最終的なものはまだ上がってきてはいないですけども、簡単な報告では初日の参加が約190名ぐらい、2日目の参加が80名ぐらいということで2日合わせて270名ぐらいの参加があったということを聞いています。初日が多かったのは、やはり学校の先生方が今年は研修の位置づけとあったので600名ほど参加しています。参加者の感想としては非常に概ね高評価ではあったんですけども、ただその一方で研修で参加してる先生方の中には、なかなか自分の意思では違ふところもありましたので、その分内容がうまく自分の学びたいものとマッチしていなかったところも一部見られたかなというような感想もありました。あとは参加された方、感想を少し。後、登壇された方もいるので感想を。

小笠原参事 自分は分科会1と2とあったんですけども、どちらも対話の内容の話で講師の先生からお話伺いました。主に学校の先生方が多いってところだったので、講師の先生も学校での対話の大切さとかどんなふうに子ども達と関わることができるのかってことでヒントの部分だったりとか、3人ぐらいのグループワークみたいな形で実際に体験しながらというか、そういう内容でお話伺うことができました。今回苫小牧の学校の方からもぜひ参加したいってことで連絡受けまして、その先生もすごく楽しみにしてきましたってことで、学校帰ってから校長先生にすごく満足したという報告もされていたみたいで、そういうご連絡も受けてます。先生以外の方も一緒に共有することができたので、必ずしも先生方だけの研修ではなくて、保育園の先生だったり道外から来られた方とか、いろんな方との交流ができたのがすごくよかったかなと思ってます。

岡崎 LPM 私の方は、社会教育と福祉の出会い場所みたいなことで、社会的処方という今福祉で注目されているものを講師をお呼びしてお話していただきました。参加者ももっと少ないかなと思ってたんですけど、前半が30人で後半が10人ぐらいってような形で非常に好評でした。その時に私としては、ここからさらに活動に繋がってほしいなっていう思いがあったので、もう既にこの高齢者の社会参画みたいなことに興味関心のあった地域おこし協力隊の千葉さん、今アビーに所属してますけど千葉さんですか、健康福祉課の小坂課長補佐にも来ていただいて、今そこが少し団体を作ってさらに学びを深めようというような形で進んでいます。そういう意味では社会教育というものが福祉だったりとか教育はもちろんなんですけども、観光だったりとか様々なところの地域資源の集合体になるってことが多くの人に理解してもらったのかなって言うふうに思って、やってよかったなって思います。以上です。

井内教育長 よろしいですか。今の教育フォーラムに関連して何か。

山根委員 フェイスブックで見てたら結構好評なようで、今後に向けてヒントになったってというか参考になったというのが見られたかな。

守屋委員 今は、SNSでいろいろ状況見られるから違いますね。

井内教育長 そうですね。そういった比較的 SNS は高評価の所が上がってくるというのがあるんですけども。ただそれであったとしても、マイナスの炎上がなかったのが概ねよかったのかなというふうに捉えています。他、諸般報告について他の項目でいかがでしょうか。よろしいですか。1点私の方から補足で、8月21日に道南ブロックの教育長研修会。せたな町行って来たんですけども、学校教育じゃなくて社会教育の方なんですけど、特に文化財の方。せたな町というのが北檜山と大成と瀬棚で合併して、旧瀬棚商業高校の校舎をリノベして郷土資料館にしています。で、その時にそれぞれの3町の歴史みたいのも掲示していきながら、うまくまとめて文化財を残していたというのがあってこれが非常に参考になったなど。今の安平町においても、郷土資料が追分と早来にあるんですけども、震災のところをきっかけに常時開館はしてない状況で。今資料整理してるんですけども、やっぱり2町の歴史があって。町史の方は今新しい安平町史っていうの纏めて作っていますから、それが出来上がったタイミングぐらいで郷土資料、文化財をどうしていくかということも考えていかなければいけない。そういった状況において非常に参考になったので、もし機会あればそういった合併したところの郷土資料をどう取り扱っているのか研修等行ってみたいなどと思っています。では、その他なければ次に移ります。議案第1号、令和7年度安平町一般会計補正予算について事務局お願い致します。

上岡 GL 議案第1号、令和7年度安平町一般会計補正予算について。令和7年度安平町一般会計補正予算を別紙のとおり提出する。令和7年8月27日提出。安平町教育委員会教育長。提案理由。令和7年度安平町一般会計補正予算について、地方自治法第218条第1項の規定により提案するものである。【 学校教育グループ説明 】

武田 GL 【 社会教育グループ説明 】

井内教育長 はい、ただいま事務局より説明が終わりましたが、この件に関しましてご意見ご質問等いただきます。補正予算についていかがでしょうか。よろしいですか。はいではご異議がなければ議案第1号は提案通り可決とします。続きまして議案第2号。財産の取得について事務局説明をお願いします。

上岡 GL 議案第2号。財産の取得について。次の財産を取得したいので、議会の議決を求める。令和7年8月27日提出。安平町教育委員会教育長。提案理由。財産を取得するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第6号の規定により提案するものである。【 資料により説明 】

井内教育長 ただいま事務局より説明が終わりましたが、この件に関しましてご意見ご質問等をいただきます。いかがでしょうか。守屋委員 更新というのはタブレット端末も新しく買い替える。

上岡 GL そうです。

守屋委員 中の更新ではなくて。

廣川委員 これ、町内の学校全部ですか。180台。

上岡 GL 部分的に更新していきまして、この後にも来年度にも更新する部分がある。

井内教育長 補足しますと、まずはiPadを導入したのでそのiPadで更新をかけてはいるんですけど、残りの台数についてはiPadがいいのか、それともキーボード端末。パソコンみたいなもの方がいいのか学年が上がるにつれて、そちらの方がいいのかっていうのは学校現場のヒアリングも含めて検討していきたいなというのと、後は今回予備機が一定数壊れても大丈夫なように、児童生徒数よりも少し上回って国の方で予算見てもらってますので。まあただそうは言っても、いろんな機械の中でiPadが一番壊れないそうです。故障率含めて。

廣川委員 予備の分も含めての180ってことですか。

井内教育長 はい。他いかがでしょうか。特になければ議案第2号は提案通り可決といたします。続いて、議案第3号。令和7年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」における市町村別結果の公表について、事務局説明をお願いします。

小笠原参事 はい、私より説明させていただきます。議案第3号。令和7年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」における市町村別結果公表について。令和7年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」における市町村別結果の公表について、北海道教育委員会教育長より回答を求められたので、回答内容について承認を求める。令和7年8月27日提出。安平町教育委員会教育長。提案理由。令和7年8月19日付け教学向第415号で北海道教育委員会教育長より令和7年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」における市町村別結果の公表について照会があり、別紙のとおり同意することに承認を求めるため提案するものである。次のページが回答の報告書になっておりまして、これ例年の形なんですけれども、北海道で大体11月ごろに北海道版の結果報告書が発表され公表されますので、そのwebページ上に各市町の結果報告について一緒に公表されるということに同意するかしないかということを確認するものになります。例年、同意するということで回答しておりました。今年度につきましても同意するということで回答してよろしいかご検討いただければと思います。なお昨年度までは、市町村の公表というのが大体A4で1枚ぐらいのサイズの用紙がPDFデータで公表される形になっていたんですけれども、今年度から各市町でその報告書については作成をして、ホームページ等に公表すると。そのリンク先QRコードなどを北海道版の報告書に掲載するという形に変更しますということで通知がありましたので、今年度からそのような形の公表ということになります。もう一つ、資料としまして別添えにというのがありますが、それが公表に関する道教委の考え方ということで説明されているものですので、読み上げはいたしませんけれども、このような方向性で報告書が作成されるということになります。なお別のファイルの方に、合わせて届きました参考資料ということでデータもありますので、フォルダー内の資料についても後ほどご確認いただければと思います。以上です。

井内教育長 はい、ただいま事務局より説明が終わりましたが、この件に関しましてご意見ご質問等いただけます。いかがでしょうか。ご異議なければ、議案議案第3号は提案通り可決といたします。本日の議題については以上となっております。では続きまして、3協議報告事項に移ります。学校教育グループからの報告についてお願い致します。

佐々木次長 かねてからちょっと話してた学校視察なんですけど、各校を回りたいと思うんですが日程的に例えば給食を試食したいとかそういうのあたりはありますか。可能であれば、学校視察して通常の会議をここでするっていうのがいいかなと思ってたんですが、もし給食ってことであれば午前中からですか。学校視察ってことであれば、ちょっと移動距離長いんですけども昼からでもいいかなっていう気がするんですが、どうですか。午前中からだと、ちょっと時間取られて。

守屋委員 どうしても給食を食べたいというわけでもないです。

佐々木次長 では学校視察ってことで、可能であれば11月の教育委員会を通常13時半なんですけども早めにさせていただいて、学校とも日程調整して各校を見学してから、またこちらで11月の定例教育委員会を開催するという形にさせていただきたいと思います。回る順番等については、また改めてお知らせいたしますので、よろしくお願い致します。

井内教育長 他、学校教育グループありますか。

小笠原参事 学校の先生方の道外研修ということで6月に長野県の大日向小中学校の視察がありました。来月9月17日に、第2回目の大日向小中学校への視察ということで追分小学校の校長先生と教務主任の先生、それから早来学園の鈴木教頭先生、あと教育委員会から佐々木主幹が同行して4人で訪問をするという予定になっております。合わせて、こちら6月に教育長と私の方で久喜市教育委員会と砂原小学校という所に訪問させていただいたんですけれども、今回は中学校の方を視察訪問をさせていただけないかということで、今、久喜市の教育委員会と連絡を取っています。まだ確定ではないんですけれども、今後、授業時数特例を追分小中学校に導入するにあたっての参考事例ということで、佐々木主幹の視察を予定しております。直近の予定では

一応そのようになっております。以上です。

井内教育長 では、学校教育専門官および子育て総合教育専門官からの報告をお願いします。

岡崎 LPM チラシお配りさせていただきましたが、9月6日土曜日1時から16時まで追分の学校を考える会のキックオフをやりたいと思います。金子先生が来ていただいて、これからの教育は何が大切なのかということをお話しながら、皆さんで少し考える時間を取ってというようなことをやっていきたいと思いますので、ぜひ教育委員の皆さんも来ていただけたらと思います。また、これに伴って子ども達へのアンケートと先生方へのヒアリング等を進めています。住民の方々にもヒアリングを進めていて、今もう60人近くヒアリングしています。まだ全体をきちんと整理されていないんですけど、整理されましたらまたご報告したいと思います。はい、以上です。

守屋委員 この金子先生って、どういった感じの方ですか。

岡崎 LPM 金子先生は、学校の施設の改修プロジェクトが文科省にあるんですけど、ここにも参加されてる先生です。なのでコンセプトから学校をどうやって作っていくのか、そのベースとなる、ということが今教育業界で行われているのか、変えようとしてるのかみたいなことを結構楽しくというか語ってくれる方なので。

井内教育長 大学の教授の感じはしないです。話したら、トークが軽やかでとても面白いですよ。

岡崎 LPM 金子先生にもご承諾を得てるんですけど、この先生の講義の部分は動画を撮っておこうと思ってますので、もし来られない方いらっしゃったり、あと学校の先生先方にも共有していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

井内教育長 60名のヒアリングした方ってどれくらい当日来てくれそうですか。

岡崎 LPM これからもう1回。私たちは100人集めるぞっていうのでやっているの、是非とも皆さん来ていただけたらなと思います。これからもう1回声かけ直すって感じだと思う。

井内教育長 あと何人って言ったらみんな。100目指したいですね。

岡崎 LPM あとどうしても、追分って書いてあるので、この早来地区の方は関係ないっていうふうに思われてしまうかもしれませんが、場合によっては今後追分の方に引っ越される方もいらっしゃると思うんですね。アパートに住まわれてる。なのでそういう方々にも来ていただきたいというふうにおもっておりますので、周りに関心ありそうな方がいらしたら是非声かけをお願いします。

井内教育長 後よろしいですか。それでは私の方からいくつか報告。画面見ていただいてよろしいでしょうか。今年度の全国学力・学習状況調査の結果です。小学校の追分小学校と早来学園の違いです。円が大きい方がそれだけ得点っていうか数値が高いということです。で、これは点数ではなくて学習状況になります。おそらくこの読書というところで早来学園が高いのは、まなびおを持ってるからだと思えます。昼休みの時とか中休みとか。この真ん中の点線が全国平均だったらこれぐらいでしょうかということなんです。で追分小学校は自己有用感が非常に高いです。高社会性も非常に高く、総合や学級活動、道徳も高いというのが出ています。まあその一方で、生活習慣と主体的な学習の調整というのがちょっとのところはあります。一方の早来学園というと、今こういった状況になっています。で、これが小学校6年生の状況です。中学校3年生だとしたらどうなるのかということを見ていくと、こちらになります。で、自分も最初、目を疑いました。追分中学校の3年生、非常にそれもクラスの雰囲気というか体育大会に行ったりとか、あと総合的な学習の時間で地域と連携するところを見せていただいたら、もう非常に今いい状態ってのが分かります。早来学園の方はというのはこれで、つまり一番内側のここで終わってるんです。で、読書はまなびおがあるからではないかなというのがこの状況です。そして学力というものは、基本的にこれに支えられてるんですね。これに支えられての学力になるので、小学校の学力はこうなります。当然、主体的対話的で深い学びということが下がっていくと、国語っていうところはやはり下がっていくだろうなとか、あとは主体的対話的で深い学び、自分の頭で考えるってことが下がってしまうと理科は下がってしまいますね。なんでこうなんだろう、不思議だなみたいなのが。というのが出てきます。では中学校の方はというと、中学校はこういう

ふうになってます。おそらく、町外の方がイメージしている早来学園って左側だと思うんですよ。町外の方が抱いている早来学園は、左側だと思います。だけど、移住しましたと実態はというと、これが今実態っていうのがこうなっております。ということで、皆さんご感想をいただいてもよろしいでしょうか。

守屋委員 読書が高いつて言っても、高いわけではいということ。そこでは抜けてるけども、追分と同じぐらい。

廣川委員 先生達はこれを実際、実感しているんですか。授業をしていて。

小笠原参事 先生方の悩みは聞きます。例えば学級経営とか。そこで苦労してるっていう声は聞きます。

廣川委員 これ、毎年こういう風なグラフを作っていますか。

井内教育長 毎年項目はちょっと違うんですね。

廣川委員 でもこの例えば、まあ学習のその到達度みたいなのとかは今までも、これが早来学園になる前からあった。

小笠原参事 このように纏められてるものは毎年あります。

廣川委員 なる前と言うか、安平、早来、遠浅、小学校と早来中学校の時と比較はしていますか。それはいない。

井内教育長 この3年生は小6からだったので、前に受けてるのは小6の時に同じの受けてるんですよ。中3で受けるから小6の時見てみたんですよ。小6の時には早来小学校で見たんですけども、やっぱり学年としては円は小さかったです。学年は円は小さくて、3年間でもっとちっちゃくなった。だから、これぐらい全国平均があったのがぐっとちっちゃくなったことで、もともと小さめでした。小さめだったものが3年間でもっと小さくなりました。

守屋委員 これどう調査するんですか。

井内教育長 質問するんですよ。質問に対する回答を4月にするんですね。で、その質問のアンケートみたいのを調査して、学力のは単純にペーパーテストから見えていくんですけど、やはりこのこういったところと学力が相関性が高いつていう。こっちが小さいけど学力高いつてあんまりなくて。なので裏返したら、ここを高めたらこっち上がるよねっていうのなんですよ。それはもう追分中学校が歴然としていて。これが圧倒的に高いので。

廣川委員 原因を究明することができるんでしょうか。

小笠原参事 毎年、調査する対象が6年生と中学校3年生なので、必ずしも毎年を比べるってことはできないので。

廣川委員 あと、学年によってやっぱり違うっていうこともあるとは思。

小笠原参事 なので、上がりさには確かにあります。ありますが、例えば今年度でいうとその急激にある学年だけぎゅって。来年は分かりませんけれども、来年も同じ状況になる可能性があるのか、それとも学年の状況等によりまた違う結果になるのかっていうところは、そこはちょっと。中学の段階で言えば、6年生の時の状況からどうふうになるかっていう想定っていうふうにはなるんですけども、後は学校の取り組みですね。

山根委員 早来学園としてはまだ開校3年目っていうところで、新しい内容で取り組んでいる部分があるので、それをどうふうに着させていくとか、それから子ども達にその部分をどう浸透させていくかっていうところが今課題になるところかなと。大きく環境が変わったっていう部分で、子ども達がどう感じているのかっていうところもしっかり確認して、今後の改善の方向性をもうちょっと考えていかなきゃならないところかなっていうふうに思ってます。

廣川委員 でもこれ、この間岡崎さんがコミスクで、みんながこう意見出してくれたやつに絶対リンクしてると思うんですよ。私はね。まさにあそこにかかれてたことがこの結果に現れてるんだらうなって思うんで。

岡崎 LPM これ、結構ショックですね。こんなにつて思うのと、ただやっぱりデータってすごく嘘つかないっていうか、重要なものなのでこれをベースにどう改善するかだと思うのと、今の3年生が2年生の時どうだったんだらう、1年生の時どうだったんだらうっていうようなことって、これでは計れないじゃないですか。テストの点はちょっと違うんですけども、CSポートフォリオというコミュニティスクールがどう機能してるかっていうものを文科省が調査する方法があるんですね。それはやりたいなと思っていて、追分の方はこちらの考える会のアンケートにそれを含めさせて進めているのでおそらく出てくると思うんですけど、早来学園の方もそれをやって、どうふうに対応してたらいいのかっていうのを先

生や学校運営協議会の議論するベースにできたらいいかなっていうふうには思います。

守屋委員 人数が多いと小さくなりやすいとか。

井内教育長 1人の回答によってすごく影響があるっていうのはむしろ14の方なんですよ。だから、14しか居ないのにこんなに高いっていうことは、みんながこうだっていう話なんですよ。

山根委員 これってもう、昔から高い人と低い人、極端にっていうのは聞いてたんですけどね。見てたらこれみんな高い。全国平均よりちょっと上回ってるなと思ってはいたんですけど。

井内教育長 逆に27人も居て、この1番内側だけで終わるってどういうことって話です。27人も居て。これが今の早来学園の実態っていう話になると、まあ一つの事実としてあるのは建物ではないってことですね。建物の新しい古いとかと子ども達のこういったものは、イコールではないのが明確に出ている。それがあとはこういった学習状況というか、この部分が学力と結びついているっていうのもそう。もし、こちらの状態ですごい学力高かったらそれはそれで心配ですね。なので今、教育長の立場で校長先生達に言ってるのは、これは追い求めてません。安平町としては、やっぱりこっちを求めたい。そしてこれを求めていけば必然的に上がるから、自己有用感とか社会と関わりたいなとか。で、自分で自分のペースでしっかりと学習することができるとか、基本的な生活習慣が整ってる。

山根委員 これにはない自己肯定感とかはどうなんですか。

井内教育長 おそらくここに近いんだと思うんですが、自己肯定感と自己有用感っていうのは、かなり近い。で、それで1つ前の協議事項にあった、公表しますっていう話ですよ。安平町としては学校ごとでは絶対に公表できませんと。学校ごとなら公表はできないとなると、安平町全体で公表することになって、これを足して2で割るんで。

廣川委員 なんか、追分かわいそうになる。

井内教育長 というものが公表されることになるでしょう。で、この両方を知ってるっていうのは教育員さんだけなんですよ。学校は自分の学校しか分からない。

岡崎 LPM 校長先生も知らない。(知らない。) 今度の学校運営協議会で、校長先生がこれをネタにしたいっていう風に言ってくるんですけど。

井内教育長 それ校長先生は自分の学校は知ってますよ。

岡崎 LPM これを見て、学校運営協議会としては、議論する。

小笠原参事 そうですね。町の全体のは、まだ学校も。学校の方には自分の学校と、町全体のはまだ直接は見れないですね。

岡崎 LPM 足して2で割ったやつが見れるけど。

小笠原参事 町の結果を見ると比較はできます。

廣川委員 足して2で割ったやつを見て、追分はうちはすごいのに結果がこれだから早来はってなるし、逆のパターンですね。早来にしたらね。うちはこれなのにこっちがすごいから、追分がすごいんだねってなるし。

小笠原参事 去年で言うと学園の方が、円の形で言うときちょっと大きかったりするんですよ。まあその極端ではないんですけど。だから年によって学校によっても違いはあります。でも、こういう結果になるってことは、かなり極端な何かその要因があると思います。

井内教育長 で、これを見て学校運営協議会で議論する時も、矛先が先生に行くとかではなくて、じゃあ自分達は何ができるんだらうかっていうところに行ってほしいですね。そしたら自己有用感を高めるっていうか、そこが低いんだとしたら子どもとの関わり方とか、そういったのみんな勉強しようかだとか。後はまあ社会性ってなってるので、じゃあ地域活動とかそういったところにちょっと子どもと一緒に足を運んでみようかとか、もしくは自分達が学校と関わっていかうか。生活習慣とかそういったのもあるので。まあその一方で、やはりじゃあ学校はどうするんだらうっていうところもあるので、そこはやっぱり学校の中で議論していただくことになるのかなと。でも、まあ非常に衝撃的。

山根委員 このアンケートを見てみたい。

廣川委員 そうそう。どういことを聞かれてんのかね。

井内教育長 これが生徒質問紙っていうもので、毎日朝食を食べていますか、同じぐらいの時間に寝ていますかなど生活習慣ですね。自分のところに良い所があると思いますかとか、先生はあなたのいいところ認めてくれると思いますか。こういったのが出ていて、どれくらいですか。

岡崎 LPM 細かいやつもデータあるんですか。

井内教育長 あります。で、後は先生方もどうい風にやってますかみたいのが出てくるんですね。これは先生方にも質問取ります。そしてこの上のところが、よくやっている、まあまあやっている。あまりやっていない、全然やっていないみたいな、いろんそういうのがあるんですけど。もし、なんだろう、課題があるとしたら、先生方は友達や周りとの考えを大切して、お互いに協力が課題の解決に取り組みますって言うてんです。やりますって先生方は言うていて、けど結果はだとか。

小笠原参事 これは学校管理職が回答してるので校長先生の回答で、それで2なんです。なので、先生方の回答ではありません。

廣川委員 校長先生には見えてない部分かもしれないです。

廣川委員 その辺、健康福祉課とかとは連携みたいなのは。

井内教育長 健康福祉課が持っている情報と教育委員会が持つてる情報、今まではそれぞれが独立して持っていて、お互いが見えなかったんですね。だけど子ども家庭センターができたので。子ども家庭センターとあとは要保護児童対策協議会っていうその中の枠組みの中で、この枠組みだと守秘義務を保持した中でそういった情報を取り扱うことができるっていう法的な枠組みをうまく使ってデータ分析をまたしっかり現状を把握した上で施策反映を考えていきたいなど。健康福祉課の方で気にされてるのは、中3までは学校教育が繋がってるんですけど高校行った瞬間に学校教育から離れてしまうので、そうなる健康福祉課だけ見ていかなきゃいけないですね。となるとやっぱり小中までの間になんとか。だとしたら、ここで見ていただいて分かるように未就学の転入が多いので、子育ての段階から関わっていく必要があるねとか。本当はショックを受けて見えてきたぐらいです。

廣川委員 ちなみに子ども園とかは、そのまあ発達に障害あるお子さん達とかはどういふうな対応。

井内教育長 把握はしてますので、把握した上で必要に応じて先生を配置。プラスで配置したりだとか療育に繋げていたり。ただ受け皿がもういっぱいになってきたので、今、はやきた子ども園さんの方では自前で子ども達の発達の部門を1つ新しく作ろうかいうことで、福田園長が資格取る。この傾向はまだしばらく続くのではないかと。

岡崎 LPM 北海道って、義務教育と高校のこういような情報の共有ってどんな感じでやられてるんですか。

小笠原参事 一応、特別支援のクラスの子達が進学する時には、一応その子の教育指導計画とかがあるので、それを家庭からになりますけども学校の方に持っていくのと、それからまあよく小中である情報共有や引き継ぎ等は最近結構高校と中学校もやるようになってきてて、そこは春休み期間中にやります。今、高校もやっぱり支援発達の部分だとか、そういうのを持ったお子さんが普通高校にも入学することができるようにだんだん変わってきてるんで、そういう意味でそういう情報共有っていうのもすごく大事になってるっていうのはあります。

井内教育長 こういようなものがあつた上で、今の文部科学省で新しく学校の働き方改革に関して色々出てきています。文科省の広報なんですけど、地域保護者の皆さまへということで、今スマホはついに2時間っていうのを条例で定めた自治体が出てきましたけれども、教師不足でしたとかなので、なんとか地域や保護者の皆様と学校運営に参画してください。これまさに今岡崎さんが、学校だけではもう難しいですと。みんなで考えましょうと。それで役割分担の見直しと、こういところにご理解くださいということと、こういのお願ひいたしますということを文科省が出してきています。で、他には首長部局。ここは教育委員会部局なので。首長部局の方はこういふうになっているので、総合教育会議でしっかりとこちらの方から。首長部局としても予算措置だとか、こういことでき

ないですかっていうことを挙げていく。で具体的に話していくと、今これは学校関係施設の管理の外部化。これも取り組んでいます。例えば早来学園だとそういう風になっているので。安平町の保護者はまさにこれから。他にも支援スタッフ、学校用務員。これも安平町としては他の自治体より人数多くいろいろとつけていますので。これは首長部局がしっかりと理解をしていただいて、その辺りの予算付けをしてもらって、ただこれは安平町だけ特別なのではなくて、先に進んでるだけで当たり前になっていきます。それと、後は校長先生のところには、もう今までのこういったものをちょっと見直してみませんかとか、毎日掃除しなくてもとか。子どもの下校時間早くしたりだとか。なくしてみてもいいものもあるではないかだとか。なくせと言ってるのではなくて、各学校が見直していくことに対して理解してくださいってということ、校長先生ここまで思い切ってやっていいですよとか。安全配慮義務っていうのがあるので、先生方の安心安全、働きやすさ。そこがベースでないと、先ほどの円の小さいものも大きくなりませんよ。というところが混ざり合っていたりしています。それともう1つは今、国の方で伝えていることと、安平町が取り組んでることの繋がっているところがこちらで、授業時間が多かつたら先生方遅くまでもいるし、授業もたくさんになってしまうからこれ減らしませんかっていう話です。具体的にどんなことやってるかっていうと、1日6時間×週5日。全部で30でありますね。これが今だいたい29なんです。だけど、例えば八王子の教育委員会は、もう28を上限にしてくださいっていうふうなのを言っちゃってるんですよ。28上限、29やらないでください。週2回5時間授業にしてくださいだとか。そういったことがあって、これができるんですかって言ったら文科省の方で具体的にできますっていうのも言って。給食とか行事だったらこれぐらいですよ。これだったらこれこれがここで、これ全部出したらこうなるから、どうやら週28でもできますよっていうことを具体的に示してですね、文科省の。この資料は校長先生にも渡っています。ただ、教育課程の編成権は学校長にあるので、まあ八王子ぐらいまで教育委員会が上限28って言うかどうかっていうところです。今までは比較的、僕の方でこうしたいですっていうのは言っていたんですけど、状況調査の結果が出た、それと実際の支援の必要なお子さんの人数とかそういうの見えてきた。そういったデータに基づいてじゃあ安平町の学校をこういうふうにしていきませんかっていうことをまた整理している最中です。情報提供でした。うちの町の一番強み何かなと思った時に、この間道南ブロックの教育長会議にも行って来たんですけども、持ち上げてるとかではなくて、やはり教育委員さんが理解していただいているんですよ。名誉職ではないので言い方がちょっと言葉選ばず話してしまうと。そして皆さんが同じ温度感でこうやって議論だとか、ここどうなんですとかざっくばらんに言っていただけるのは非常にありがたくて。で、こちらとしてもここを通さずにやるってことはしませんので。なのでちょっと時間少し長くなったりだとか情報量多いところあるかもしれませんが、具体的に今の学校の現状、町の子どもの現状をお伝えして、その中でこんな聞いたんだけど。それは他の自治体でこういうことやってるみたいだよでもいいですし。現場の先生からこんな聞いたよだとか、保護者からこういった話聞いたよだとか、そういったものもどんどん上げてもらって、その中でいい教育要請できたらいいなと。この間の教育まちづくりフォーラムの中で1つの方向性が見えたのは、社会教育。学校教育だけに任せてたらもう難しい。子どもがもう学校の中だけでは育ちきらない。だから社会教育をセットに。となった時には、受け皿とか受け止める側の地域社会側も一緒になって話になると、大人の社会教育も。そしたらその社会教育に関わることによって、大人自身も癒されていったりだとか、ウェルビーイングなんかいいなっていうふうになっていく。まあ、その辺のところの分科会を岡崎さんが持ってください。社会教育をしっかりと。

山根委員 文科省もどっかで何校か多分やってるんですよ。それを基にしてできるっていうところ。デジタル化して。

井内教育長 そうです。北海道だと岩見沢市で1校だけやってますね。時間がないので言わなかったんですけども、入試変えますって言ってるんです。入試変えないことにはどうもならないし、教科書も薄くしますって言ってます。教科書を薄くして。

守屋委員 そういうこともって保護者が知らない。入試が変わってきますとか。

廣川委員 そう。ただ時数を減らしたら勉強がとってなっちゃうから、こういうことをちゃんと伝えて、だから時数を減らしても大丈夫ですよって方に持ってかないと、ただ実数減らしますとか何とか言って。

井内教育長 参観日をうまく活用していきたいと。前からご意見いただけてますけど、このためだけに集まってくださってのは難しいので。参観日のところをうまく活用しながら、そこに参加するインセンティブとか何かがあったらなと思うんですけど。私の方からは以上です。では次回の教育委員会の開催について事務局よりお願いいたします。

佐々木次長 9月24日水曜日、1時半で計画していたんですが皆さんいかがでしょうか。（大丈夫です。）

井内教育長 では、次回9月24日水曜日、13時30分からということにいたします。それでは以上持ちまして、本日の案件全て終了いたしました。本日の議事運営にご協力いただきありがとうございました。これを持ちまして令和7年度第5回安平町教育委員会を閉会いたします。

閉会 14:45

署名教育長

署名委員
